



埼玉西部消防局 山岳救助隊 NEWS

春号

平成27年
5月1日発行

平成27年度山岳救助隊2年目始動

厳しい寒さも終わり、春の暖かさを感じる今日この頃。これから新緑の季節を迎え美しい景色となる奥武蔵。私たちも、平成27年4月1日から、山岳救助隊に新たなメンバーを迎えて2年目が始動しました。

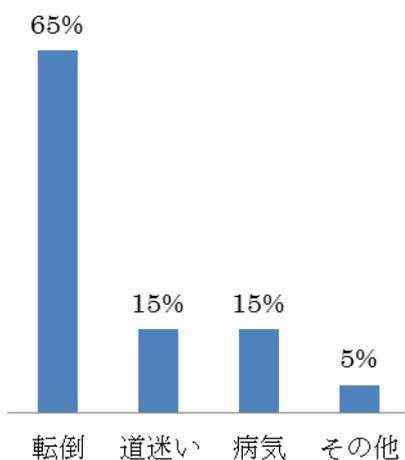
さて今回は、①平成26年度山岳救助出動実績②山におけるリスクマネジメント③登山におけるマナーについてこの3点について考えてみたいと思います。

①平成26年度山岳救助発生状況

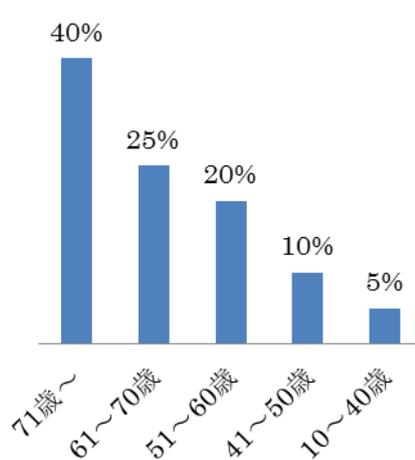
下記のグラフは、平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）における山岳救助事案の内訳、年代別負傷者、発生時間帯を表したグラフになります。山岳救助件数は20件、内訳は、転倒と道迷いを合わせると、80%。また、年代別負傷者における高齢者（61歳以上）が、65%を締め半数以上の結果になりました。発生時間帯は、午前中に発生する割合が半数となり、午後下山中による事故が多いと思いましたが、意外な結果が分かりました。昨年までと同様、高齢者による事故が依然と高い割合を占めています。まずは、自分の体力に見合った無理の無い登山計画を立てていきましょう。



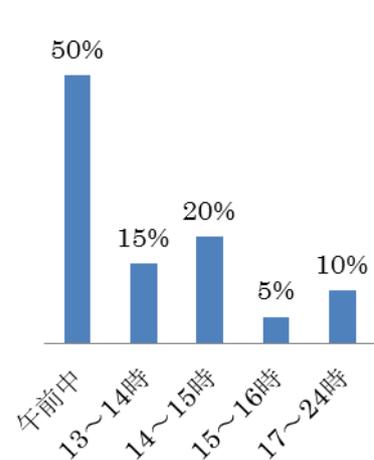
山岳救助内訳



年代別負傷者

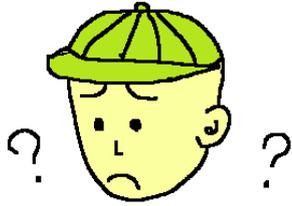


発生時間帯



②山におけるリスクマネジメント

山におけるリスクマネジメント？なんだか難しそうな言葉ですが、簡単に説明すると、ある行動に伴って、危険に遭う可能性や損をする可能性を回避することと考えて下さい。例えば、天気の良い日に〇〇山に登る登山計画をしたところ、予定時間より早かったため、いつもとは違う別ルートで下山しました。ここで問題発生！計画に無かったルートのため、地図も無く予備食料も持っていませんでした。このように、リスクとは「場所」によるものではなく、私たち自身による問題でもあります。たしかに、山には危険な場所はたくさんあります。危険な場所に立ち入るのは、私



ち自身です。別の例で、前日に寝不足気味で登山し、下山中に転倒し足首を負傷した。これも、寝不足により無理をしたためにより起きてしまった怪我です。これらを防ぐのは、場所の危険ではなく、自分の体調管理、登山計画ではないでしょうか。



*これからゴールデンウィーク中に登山計画をしている方へ

- 低山だからといって侮らない！ → 低山でも道迷いする人は多いです
- 冬に比べ陽が伸びてきてからと油断しない！ → 市街地に比べ山間部では日没が早い
- 予想外の天気にご注意しましょう！ → 雨に打たれると、予想以上に冷えます
- 登山届けを提出しましょう！ → 人数に関係なく提出しましょう
- 地図・コンパスを持参しましょう！ → GPS だけでは電池切れになるかも

③登山におけるマナーについて



山では、見知らぬ人でも挨拶をする光景がよく見られます。これには、あいさつをすることで自分の存在を他人に記憶させる目的があるといわれています。初対面の人に「こんにちは」と挨拶を交わすことにより、清々しい気持ちになります。

それとは反対に残念に思うのは、登山道にゴミを見つけたときではないでしょうか。昔に比べ最近、便利な時代となり、食料は家から持参しなくても、コンビニエンスストア等で買い揃えることができます。その食べたゴミを持ち帰ることは、難しいことではないと思います。多くの方は守っているのに、一部の方々により守られないマナー。気持ちよく登山するためにも、美しい自然を守っていきましょう。

登山届けを提出しましょう！！



いざという時に、役に立つのが「登山届け」です。消防・警察の山岳救助隊は、提出された登山届けの情報をもとに、捜索活動を行います。登山届けは、登山口に設置してあるポストや、埼玉県警察のホームページからも提出できます。また、家族や身近な人に渡しておくだけでも大きな情報源となります。

